

【アセスメント解説 別紙3】

【（ ）さんの口腔機能改善管理指導計画・管理指導計画】

個別サービス計画・口腔機能改善管理指導計画の作成

サービス担当者は、事前アセスメントを行った後、「口腔機能向上」のための個別サービス計画・口腔機能改善管理指導計画を作成する。

○ 個別サービス計画・口腔機能改善管理指導計画作成の手順と記入要領

● わたしのゴール

（阻害因子：口臭・食べこぼし・ムセ込み等をなくすことでなく、その阻害因子をなくしてどうしたいかを書く）

ゴールを設定する際『どうなりたいですか？』『どんなことをしたいですか？』という問いかけでは、なかなか目標設定は難しく、現実から離れた目標となりがちです。高齢期では機能が維持されることが向上と同程度の価値がありますので、食事やお口今の状況を聞き取りましょう。その後に『今の状態を維持するためにはどうしたらよいのでしょうか？』『何がしたいですか？』と問いかけながら下記のような「わたしのゴール」を設定しましょう。

参加者に主体性をもたせるのは、なぜこの訓練をしているのかを理解してもらうことが必要です。聞き取りから『口臭を減らせる方法があるのですか？』『唇の動きが悪いから食べこぼすのかな？』というような話題がでてきます。

① まず「こうありたい」姿、「こうしたい」生活などの本人の意向を把握する。その際、地域包括支援センターの介護予防ケアプランを参考にするとともに、摂食・嚥下機能や口腔清掃自立などの口腔機能を、生活機能レベルでとらえ反映させる。参加者に主体性を持たせる。と同時に不健康さの「気づき」を与える。（自らの不健康、不活発状態に気づいていない場合が多い）

例 「○○できるようになる」「○○のような生活を送る」など現実可能な目標を設定する

- ・ 家族と一緒に食事がしたい。
- ・ 友達と外食がしたい。
- ・ 孫と遊びたい（口臭や前歯の外見を気にしている）
- ・ 友人と語り合いたい。老人会に出たい。

- ・ お友達と、普通ったあのレストランでもう一度食事をする事。
 - ・ 孫と遊園地や買い物に行く。孫とまた食事をしたい。
 - ・ 夫婦で温泉旅行をする事。
 - ・ 最近、食べられなくあの食品を食べてみたい。
 - ・ お孫さんとレストランで食事をする。
 - ・ しっかりなんでも食べられるようになりたい。
 - ・ 時々よだれがでるので、無いようにしたい。
 - ・ 口臭をなくしたい。
 - ・ 発音を明瞭にしたい。
- □の意向に照らし、利用者の口腔機能低下の原因となっている疾患や障害について、その改善の可能性、悪化の危険性をアセスメントする。とくに、利用者や家族が、問題に対してどのように感じているか、ケアにどのように反応しているかなど、本人のみならず家族や担当介護職や関係者からも情報収集する。また、意欲形成や習慣形成に影響する過去の習慣や認識あるいは利用者の価値観、人間関係や社会参加など、その他の要因も整理をする必要がある。
- 以上、① ②をふまえ、利用者の口腔機能にかかわる「課題」の中から最も重要と思われる、利用者とも共有できる内容を1、2点に絞り「②の問題を解決して、①のようになりたい」という、利用者本人になじむ言葉でサービス計画上に明記し、利用者と家族の了解を得る。
- 上記③の課題を解決する為の目標と援助内容は、「援助したらどうなるのか」の具体的なイメージとして利用者や家族と共に設定する。つまり、援助によって具体的に「***のような生活を送る事ができるようになる」「〇〇する事ができるようになる」など、利用者を主語とした形で記述する。この全体としての長期目標の下に、決めた期間の中での段階的な短期目標や、種々の摂食・嚥下機能の面の目標や口腔衛生や清掃自立面など項目別の短期目標などを設定する。これら「〇〇することができるようになる」等の目標は本人にとっても努力目標となる。したがって、実現可能な範囲で設定する必要がある、援助するものとして、可能な専門的な判断をふまえるとともに、悪化の危険性もどの程度あるかなど、生活の中でとらえておく必要がある。また、短期目標を送付するための援助内容、留意事項、担当者、頻度、期間等を定める必要がある。

個別サービス計画・口腔機能改善管理指導計画作成時には、他の市町村事業や種々の地域資源、市民活動などのインフォーマルサービスなども、目標達成に必要な援助内容を加味検討し、幅広く計画に盛り込む必要がある。

- ゴールに向かう身近な目標と目標達成のための具体的計画

- ・ 食べこぼしを無くしましょう：鏡を見ながらイー・ウーを毎日10回行いましょう。口腔体操を毎日行いましょう。
- ・ よだれを出ないようにしましょう：イーウーのイーの時両指を使って口角を持ち上げて、唇の筋肉を強化しましょう。
- ・ 口臭を無くしましょう：歯科衛生士さんの教わったブラッシングを毎日鏡をみながら行いましょう。
- ・ 咽頭の強化。口唇を強化する。：口腔体操と息こらえ嚥下を実施しましょう。
- ・ 頬の筋肉を強化しましょう：電動ハブラシで頬のストレッチをしましょう。
- ・ ムセを無くしましょう：速度と分量を注意しながら食べる。
- ・ 食べにくいものを考えてみましょう：食形態を考えてみましょう。
- ・ 発音練習をしましょう：パタカラ、パンダのたからものを毎日練習しましょう。

- 目標達成のための具体的計画（頻度等も含む）

口唇の横引き・突出（イーウー）を毎日10回鏡の前で行う。

ボタン引きをする。

一口量の助言をする（1口入れて、ゴックンしたら次の1口を食べる）。

食形態の助言をする（パサパサしたものノリ・ワカメや、蒲鉾のようにまとまらない食品には注意して食べる）等

- 実施期間評価予定

- 実行や支援にあたって、注意することなど

- ・ 楽しみながらできるカレンダーを作製する。
- ・ 個人の認知力に配慮する。
- ・ 食事中の見守りをし、食事環境の助言をする。
- ・ 聴力の低い方、視力の狭まっている方への配慮
- ・ 口腔体操をするときには、麻痺のある利用者にはイスの配慮や周りに・介助者がつくなど転倒には十分注意する。
- ・ 性格上、協調性が少ない方には対応の注意が必要である。
